

## 学校評価

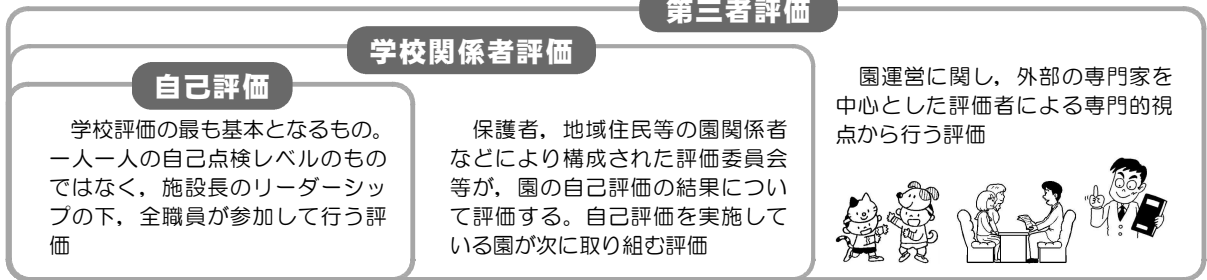
学校評価で園が変わる ～子どもも職員も保護者も、みんなが笑顔に～

### ○学校評価の目的

- 1 組織的・継続的に園運営の改善を図る
- 2 園・家庭・地域の連携協力による園づくりを推進する
- 3 保育の質の保証・向上を図る



### ○学校評価の実施手法



### ○学校評価に関する規定

**幼稚園：**平成19年の学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、**自己評価の実施及び結果の公表と設置者への報告が義務付けられました。**

**保育所：**平成20年3月告示の保育所保育指針の中で、**自己評価の実施及び結果の公表について努力することが義務付けられました。**

### ○自己評価の進め方（例）



評価シートの例は、秋田県公式Webサイト「美の国あきたネット」  
<http://www.pref.akita.lg.jp/>からダウンロードできます。

あきた型学校評価 検索

↓

評価シートの例

《学校評価シート（幼稚園）》		① 評価項目	教育課程・指導
2	重点目標	小学校との交流活動の充実	P
3	現 状	本校種目は〇〇小学校の隣に位置し、主に就学前の幼児・児童の状況についての協議の場、交流の場は前年より増えている。	
4	具体的な目標	5歳児と1年生の交流活動を年に3回実施する。	D
5	目標達成のための方策	双方の職員が保育・授業参観を行う。 ・年間指導計画に交流活動を位置付ける。 ・交流活動の指導案を、幼稚園及び小学校の教員が共同で作成する。 ・それぞれのねらいに基づいた交流活動を展開する。	
6	具体的な取組状況	双方の職員が保育・授業参観を行うとともに、合同で研修会を実施し、それぞれの指導の重点事項を確認し合った。 ・今年度1年生の生活科と園庭での年間交流活動を共同で計画し、幼稚園の年間指導計画や1年生の生活科指導計画に連携付けた。 ・交流活動実施に当たり、異日で開催を予定し、双方のねらいを明確にし、ねらいを達成するための具体的な取組内容、役割や役割等を検討し、教材の準備等も共同で行った。 ・5歳児の感想、1年生、5年生の振り返りカード等を参考に活動を見直し、次の活動に生かした。	C
7	達成状況	交流活動実施回数 5歳児と1年生 3回 5歳児と5年生 1回	
8	自己評価（評価）	（概観） ・1年生との交流活動のほかに、5年生との交流活動を実施することができた。入学後、1年生と5年生は一緒に活動する機会が多いことから、5歳児と5年生の半年定規は追加した。 ・年間を通じた計画的な1年生との交流により、5歳児の生活科学習に「自分と1年生の生活科の授業の共通点や後学を学んでいる不安感の払拭等につなげることができた。 ・職員同士が、互いの保育・教育に熱心、連携活動を共にすることで、幼児教育の質向上につながった。また、双方にねらいを定め、共通で目標を掲げ、計画的に実施することにより、互いのねらいを達成し、期待通りであった。	



### ○参考となる資料

- ・「秋田型学校評価システムガイド」秋田県教育委員会（2008.6）
- ・「学校評価ガイドライン 平成22年改訂」文部科学省（2010.7.22）
- ・「学校評価ガイドライン 平成23年改訂」文部科学省（2011.11.15）
- ・「保育所における自己評価ガイドライン」厚生労働省（2009.3）
- ・「幼稚園における学校評価推進のための研修の在り方に関する研究報告書」（財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（2012.3）